

第2学年 外国語科学習指導案

に組	男子18名	女子17名	計35名
指導者	HRT	金 崎 英 俊	
	ALT	Christopher Sneller	

1 単 元 “Swimmy”

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年「さんびきのこぶた」の学習を通して、英語での簡単なあいさつの仕方や、絵本に出てくる動物の英語に慣れ親しみ、知っている英語を使って友達や HRT, ALT とコミュニケーションを図る楽しさを味わってきている。また、ALT による英語での絵本の読み聞かせを聞くことで、外国の物語に興味をもち「もっといろいろな英語のお話を聞いてみたい」と願うようになってきている。さらに、6年生による英語劇「桃太郎」を鑑賞することで、「自分も英語を使って物語を劇で表してみたい」という願いも高まってきている。

そこで、本単元では、自分のことを伝えたり相手のことを理解したりするという目的の達成に向けて、自己紹介の仕方について友だちと学び合う活動を通して、工夫してコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることをねらいとしている。また、海の生き物の名前を表す英語や、自己紹介をする際に必要な表現に慣れ親しませることもねらいとしている。さらに、1年生と自己紹介をし合う活動を設定し、1年生に自分のことが伝わるための自己紹介の工夫について考え、相手が聞き取りやすい声の大きさ、視線の向け方などの観点に気付き、実際に活用する力を高めていくことをねらいとしている。

なお、ここでの学習は、英語の絵本教材を用いて、4年生に楽しい読み聞かせをする第3学年「In the Autumn Forest ～4年生と絵本を楽しもう～」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

絵本“Swimmy”は、様々な海の生き物が互いに知恵を出し合い協力することの大切さに気付く物語である。物語の中には“Tuna fish”等の日常生活の中で外来語として扱われている英語や、1年生で学習した色の英語等、子どもたちにとって身近な英語が扱われていることから安心感をもって英語に慣れ親しむことができる。また、“Jelly fish”等、英語がもつ言葉のおもしろさに気付くことができるものとする。さらに、主人公が様々な海の生き物に出会うという内容から、友だちや HRT, ALT と海の生き物になりきって楽しみながら自己紹介の仕方を学んだり、1年生との自己紹介で学んだことを生かしてコミュニケーションを図ることができるものとする。

そこで、本単元の展開にあたっては、導入で友だちとの自己紹介を通してお互いのことを知るという相手意識や目的意識をもたせることが大切である。そして、自己紹介に必要な表現に慣れ親しんだり、自己紹介をする実際の場面で、相手が聞き取りやすい声の大きさ、視線の向け方など自己紹介をする際の工夫の観点を焦点化し、自己紹介の仕方を自分たちで考えて実際に生かそうとする態度を育てたりすることが大切である。

具体的にはまず、ALTによる絵本の読み聞かせを通して、あらすじや扱われている英語の意味を捉えさせることで、学習への意欲を喚起する。また、第1学年「さんびきのこぶた」での「ハローゲーム」で行った自己紹介の学習を想起させ、「友だちと自己紹介をして仲良くなろう」という単元の目的を明確にする。

次に、ALT がリズムチャンツやゲーム活動を通して、海の生き物の動き等をジェスチャーで動作化しながら発話させることで、楽しく意味を捉えさせながら英語に慣れ親しませる。

さらに、生活科の学習で2年生と1年生が自己紹介をし合っている様子を提示することで、「1年生に自分のことが伝わる自己紹介をするための工夫は何だろう」という子どもの問いから学習問題を設定する。また、中間発表の場を設定することで、相手が聞き取りやすい声の大きさ、視線の向け方といった自己紹介をする際の工夫の観点を共有し、その生かし方を考えさせる。

活動の終盤には、観点を基にした自己紹介の仕方について交流する場を設けて、学習で気付いた自己紹介をする際の工夫の観点のよさを確認し次時で活用できるようにする。

これらの学習を通して、積極的に相手とコミュニケーションを図ろうとしたり、相手を意識しながらコミュニケーションを図るための工夫に気付くことができたりするようになる。また、コミュニケーションを図る際に、必要な工夫について相手や目的との関わりで捉えながら考えることができるようになる。このような学習を積み重ねることで、他者を尊重し、コミュニケーションを通して相手と理解し合ったり、円満な関係を築いたりすることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態(対象者：2年に組35名 数値は延べ人数で、結果は主なもののみ表示)

① 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度について

ア HRT や ALT、友達と英語を使って話をしたり英語を聞いたりするのは楽しいか。

<はい(35)>

- ・ 英語が楽しいから(25)
- ・ ALTと学習することが楽しいから(15)

イ 英語について、何ができるようになりたいか。

- ・ もっと英語を話せるようになりたい。(23)
- ・ いろいろな英語を知りたい。(13)

② 身に付けた絵本に関する英語について

○ 海の生き物に関する言葉を英語で言えるか。

- ・ fish(20) ・ lobster(3) ・ tuna(3)

③ 自己紹介をする際の工夫について

○ 自己紹介ではどんな工夫ができるか。

- ・ 声の大きさを考える。(8)
- ・ 相手に伝わるようにはっきりと言う。(7)
- ・ 自分から進んです。(3)

本学級の全ての子どもたちが、英語を使って話したり聞いたりすることに好意的である。(①一ア) また、多くの子どもが英語を使ってコミュニケーションを図ることへの意欲が高いことが分かる。(①一イ) 本学級の多くの子どもたちが、海の生きものを表す英語にあまり慣れ親しんでいない。生活場面の中でふれる機会が少ないからだと考える。(②)

本学級の多くの子どもたちが、自己紹介をする際に、様々な工夫を考えている。これまでの国語科の「話すこと」に関する学習や生活経験の中で理解していると考えられる。特に、「声の大きさ」など、話し方についての工夫が多い。また、表情や視線などの非言語的手段についてはあまり意識していないことが分かる。(③)

(4) 指導上の留意点

ア 「お話を聞こう」では、まず絵本への興味や関心を高めるために、ALT による読み聞かせの際に、知っている単語など気付いたことを発表させる。次に、「友だちと自己紹介をして仲良くなろう」という目的を明確にし、海の生き物になりきって自己紹介をする活動への意欲を高める。

イ 「絵本に出てくる英語に慣れ親しもう」では、海の生き物を表す英語に慣れ親しませるために、リズムチャンツでは、“Jelly fish”を体をゆらして発話する等、楽しく特徴を捉えさせなが発話することができるようにする。また、“Tuna fish”の“Tuna”は普段使っている外来語のツナであること等気付いたことを発表させ、外来語と英語の共通点や相違点に気付かせる

ウ 「自己紹介をする工夫を考えよう」では、1年生に自分のことが伝わる自己紹介の仕方について問題意識を喚起させるために、生活科の学習で1年生と2年生が自己紹介をしている写真やビデオを掲示して、「1年生にどんな自己紹介をしたいか。」と問う。その後、「1年生に自分のことが伝わる自己紹介をするための工夫は何だろう」という子どもの問いから学習問題を設定する。また、自己紹介をする際の工夫の観点を共有するために、気付いたことを中間発表をする場を設定する。さらに、観点を基に工夫したよさを味わわせるために、観点を生かして海の生き物になりきって自己紹介をした感想を交流する。

エ 「1年生と自己紹介をし合おう」では、1年生とお互いのことを知る楽しさを感じさせたり、自己紹介をする際の工夫の観点を生かして活動したことの達成感を味わわせたりするために、1年生と自己紹介をし合う場を設定する。その中で、2年生が自己紹介をする際の工夫の観点を生かして1年生に自己紹介をしている姿を価値付けたり、観点を基に自己紹介を工夫したことについて感じたことを交流する場を設定したりする。

3 目 標

- (1) 絵本の読み聞かせを興味深く聞いたり、英語を使って自己紹介をしようとしたりする。
- (2) 自己紹介をする際の工夫の観点に気付き、それを生かして自己紹介を工夫することができる。
- (3) ・ 海の生き物を表す英語や名前を尋ねる英語に慣れ親しみ、自己紹介の中で用いることができる。
・ 海の生き物を表す英語について、外来語と英語の発音の共通点や相違点を体験的に理解することができる。

4 指導計画(全4時間)

思考の高まり	過程	学習課題と主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
単元ですることが分かった。友だちと一緒に自己紹介するには、どんな英語を練習して使えるようになれるのかな。	意欲をもつ	①Let's Meet Swimmy. - ALTによる読み聞かせを聞く。 - あらすじや気付いたことを発表する。 - 単元の目的を確認する。 友だちと自己紹介をして仲良くなろう。	○ 学習への意欲を喚起するためにALTによる読み聞かせを行う。そして、スイミーが様々な海の生き物と出会う話であることを捉えさせる。
海の生き物を表す英語や名前を尋ねる表現を練習して自信が付いた。実際の自己紹介ではどう使おうかな。	つかむ	②Let's Practice. - 海の生き物を表す英語や名前を尋ねる表現でリズムチャンツをする。 - キーワードゲームをする。 - フリーズゲームをする。 - 海の生き物になりきって自己紹介をする。 - 本時の感想を交流する。	○ 海の生き物を表す英語に慣れ親しませるために、リズムチャンツやゲーム活動を行う。また、“seaweed”等、新出の英語が多いことから、最初は聞くことに重点を置いた活動をするように留意する。
相手に自分のことが伝わる自己紹介をするためには、ただ英語を言うだけでなく、どんな工夫をすればいいのかな。	挑戦する・広げる	③Think About a Way of Good Introduction. - 自己紹介をする際の工夫の観点が必要なことに気付く。 - リズムチャンツをする。 - 自己紹介をする際の工夫の観点を共有する。 - 自己紹介をする際の工夫の観点を基に自己紹介をし合う。 - 本時の感想を交流する。	○ 動物の特徴を捉えながら楽しく慣れ親しませるためにジェスチャーをつけて発話させたり、“Jelly fish”の“Jelly”等、子どもが気付いたことを発表させる。
1年生と自己紹介をし合う中で、お互いのことを知ることができた。いろいろな工夫もできたので、別の場面でも使っていきたい。	振り返る・生かす	④Let's Introduce Ourselves. - 本時の目標を確認する。 - リズムチャンツをする。 1年生と自己紹介をする際の工夫の観点を基に自己紹介をし合う。 - 観点を生かした自己紹介のやりとりを発表する。 - 自己紹介を通して感じたことや、自己紹介をする際の観点のよさについて感想を交流する。	○ 自己紹介をする際の工夫の観点の必要性を捉えさせるために、まず生活科の学習の様子を提示する。次に、活動の相手や目的を問い、「相手に自分のことを伝える自己紹介をするための工夫は何だろう」という問いから学習問題を焦点化する。 ○ 活動の達成感や観点のよさを実感させたりするために、1年生と自己紹介をする場を設定し、感想を発表させたり、観点を基に工夫して自己紹介できたことを価値付けたりする。

5 本時（3／4）

(1) 目 標

海の生き物になりきって友だちと自己紹介をする活動を通して、積極的にコミュニケーションを図る。また、相手に自分のことを伝えるための自己紹介の仕方について考える活動を通して、自己紹介をする際の工夫の観点に気付き、それを用いて自己紹介をすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

相手や目的を意識した自己紹介をする際の工夫の観点について考えさせるために、「相手に自分のことが伝わる自己紹介をするための工夫は何だろう」という問いから学習問題を焦点化する。また、中間発表を行うことで、「相手が聞き取りやすい声の大きさ」、「視線の向け方」の観点を共有して活動させる。さらに、2年生同士で海の生き物になりきって自己紹介をした活動を振り返り意見を交流することで、観点のよさを全体で共有する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	使用英語等	時 間	教師の具体的な働きかけ
意 欲 を も つ	1 Greeting 2 Looking at Photographs 1年生の自己紹介の様子を見て感じたことを発表する。	【基本表現】 I am Swimmy. /little red fish /tuna fish/ eel /jelly fish/lobster /seaweed Hello. Are you a ~?. Yes, I am. I am a ~.	5	○ 本時の活動への意欲をもたせるために、生活科の学習で1年生と自己紹介をし合い、仲を深めた写真を提示する。また、1年生からの「2年生ともっと仲良くなりたい」という思いを込めたビデオレターを提示し、「1年生にどんな自己紹介をしたいか。」と問う。そして、「相手に自分のことを伝える自己紹介をするための工夫は何だろう」という問いから学習問題を設定する。
	3 Meeting Today's Target 相手に伝わる自己紹介をするためには、どのような工夫がいるのだろうか。	【リズムチャンツ】 C : Hello. Are you a ~? H : Yes, I am. I'm a ~.	10	
	4 Practice 5 Rhythm Chants 必要な英語を練習して自信がついたよ。	※尋ねる役と答える役を交代しながら発話する。	10	
挑 戦 す る ・ 広 げ る	6 Think about a Self-introduction 7 Sharing ただ名前を言うだけで自分のことが伝わるかな。 声の大きさや視線の向け方などを意識すると、相手に伝わる自己紹介ができそうだね。	【自己紹介をする際の工夫の観点】 声の大きさ ・ 相手が聞き取りやすい声です。 (声のものさしの2であることを確認する。) 視線の向け方 ・ 相手の顔へ向ける。	20	○ 自己紹介をする際の工夫の観点を共有させるために、気付いたことを中間発表をさせる。また、観点のよさについて考えさせるために、工夫をしていない自己紹介と観点を基に工夫した自己紹介を発表させ比較させる。 ○ 自己紹介をする際の工夫の観点のよさを実感させるために、海の生き物になりきって自己紹介をさせる。また、観点を基に工夫したやりとりを発表させ感想を交流させる。さらに、観点を基に自己紹介ができたことを価値付ける。
	8 Let's Introduce Ourselves 9 Reflection ・ 感想を交流する。		10	
	10 Ending 相手に伝わる自己紹介をするために、相手に伝わるように声の大きさを考えたり、視線の向け方などの工夫することができた。早く1年生とたくさん自己紹介をして仲良くなりたいな。		10	